

令和2年度第1回大船渡市立博物館協議会 議事録

開催日時：令和2年7月29日（水）10：00～11：00

開催場所：大船渡市立博物館 会議室

出席者：【委員4名】

西村文利、中嶋敬治、村上誠、熊谷美知子

【事務局5名】

教育長 小松伸也、教育次長 遠藤和枝、博物館長 平田功、
館長補佐 遠藤高雄、学芸員 古澤明輝

1 開 会

平田館長の司会で開会。4人の委員の出席で協議会が成立していることを報告。

2 挨拶

小松教育長

西村会長

ここからは、大船渡市立博物館管理運営規則第9条第2項の規定により、西村会長が議長となり進行。

3 報 告

- (1) 令和元年度大船渡市立博物館事業実績について
事務局から昨年度の事業実績について説明した。

(委員)

小学校3・4年生で、昔の生活について学習するが、昔の道具などは学校に置いておけるものではないので、そのようなものを保管している身近な施設があるのはありがたい。実際に見たり触れたりするのと教科書だけで学ぶのでは、感じ方が全然違うものなので。

(事務局)

もっと博物館を活用してもらおうよう、先生方にPRが必要だと考えている。今年4年目になるが、夏休み期間に「教員のための博物館の日」の中で資料見学会を開催している。去年は、それを見た中学の先生が教科書に載っているものと同じものがあったということで、学校への化石の貸出しにつながった。

(委員)

陸前高田市の津波伝承館から流れてくる来館者はいるのか。

(事務局)

詳しくはわからないが、当館が震災伝承施設の一環だとして回っている人は

いると思う。

4 協 議

- (1) 令和2年度大船渡市立博物館事業計画について
事務局から今年度の事業計画について説明した。

(委員)

ジオパーク推進協議会等と博物館の関係は、人的・組織的にどのようになっているのか。

もう一点は、事業計画でも示してあったが、今後、ジオパークとの関わりで博物館の役割についてどのように考えているのかを聞きたい。五葉山のジオポイントを明らかにして、皆でしっかりと考えてほしい。

(事務局)

当博物館は、三陸ジオパークの拠点施設に位置付けられている。展示資料に地質関係の物があることから、学芸員の専門性を活かすことでジオパークに関わっている。9月には、協議会の研修事業に学芸員を講師として派遣することになっている。

五葉山については、ジオパーク関連の組織が3つほどあることなどから、最終的にどのように話が進んだのか我々も把握できていないところがある。

(委員)

ジオパークを推進するには、博物館や地域など、それぞれに役割があると思うが、まだまだジオパーク自体が市民に理解されていない。また、ジオサイトを市民や周辺地域に発信する取組みについても、大船渡市は形だけで中身が伴っていないと思ってきた。

以前、県民参加の森林づくり促進事業を活用してジオパークの周知に係る取組みを行ったこともあるが、その時の関係者のみに止まり、事業が終わると忘れ去られる感がある。そういう点で、博物館の役割は大きいと思っている。市民に対するジオサイトの啓蒙や周知・発信について、もっとアクションがあってもよいのではないかと考えていた。

(事務局)

ジオパークに関する取組みとしては、エントランスホールにペーパークラフトも作れる展示コーナーを設置している。また、博物館のホームページも内容を刷新し、ジオパーク推進協議会のホームページにも当館のリンクを貼っている。少しずつだが、出来る範囲から取組みを広げているところである。

(事務局)

沿岸南部地域の活動が鈍っていることから、三陸ジオパークが日本のジオパークから外されるとの話が出てきて、なんとか存続させなければと県下で一生懸命活動した時期があった。沿岸南部の活動が鈍っているのは県も認識してい

た。なぜなら、震災の被害が大きかったことから、当時は復興が先でなかなかジオパークにまで手が回らなかった事情がある。北部は南部より被害が少なかったのも、ジオパーク活動に傾注できたため盛んになったのだろう。

現在、市のジオパークの主管課は観光推進室であり、気仙2市1町では、けせん地域推進協議会がある。博物館も構成団体として推進協議会に参画しているし、観光推進室と連携しながら、ジオパークに関する様々な取組みを行ってきた。

市役所内でも、ジオパークに特化した形で組織を一本化するなど、横の連携を密にして取組むべきだという認識はあるが、そこまで進んでいないのが実状である。

(委員)

ジオパーク関連として予算はどのくらい付いているのか。予算がない中で、何かせよというのは難しい話だと思うのだが。どこかが予算を確保して、そこが中心とならなければ進まないと思う。

県北では観光課が中心となって予算を確保して活動しているのか、または連合体みたいな形でジオパークを推進しているのか、そこにノウハウがあると思う。

(事務局)

それぞれ自治体でやり方は違うと思う。

ジオパークに認定されたのを契機に、観光客の誘致や商品開発などの経済界との連携、体験メニューの作成などの取組みは、北部のほうが盛んである。当地域はまだ、そこまでの拡がりには至っていないが、やらなければならないとの声は出てきている。

どこが中心になるかという点、やはり気仙の推進協議会になるだろうし、それぞれ会員の役割分担がある。博物館の立ち位置としては明確であり、ジオパークの普及・発信だと思う。

いずれ、まだ組織としてまとまりが見えていない状態である。

(委員)

県のジオパーク推進協議会の事務局がある宮古周辺は、様々な取組みを実施している。それが宮古から離れていくにつれ熱気が冷めていく印象があって、ジオパークを推進する行政と地域住民との間に温度差を感じている。どこにでも温度差はあるものだが、当地域は他地域より大きく感じる。

ジオサイトを紹介するマップ等があること自体も地域住民は知らないのではないか。せっかく良い制度なのに観光に生かしきれていないので、上手く回るよう皆で知恵を出し合っていかなければならないと思っている。

(議長)

震災の影響が大きかったにせよ、これまで活動が鈍っていたのは確かなので、今の意見を取り入れながら、ジオパークの普及・情報発信に力を入れていただ

くようお願いしたい。
他に意見はないか。

(委員)

展示事業に「東日本大震災津波 10 周年関係展示」があるが、どのような内容を計画しているのか。

(事務局)

新型コロナウイルス感染症の流行がなかったら、5月にチリ地震津波関係の展示を予定していたのだが、臨時休館していたため開催ができなかった。

そこで秋に延期とも思ったのだが、思い切って3月に東日本大震災津波 10 周年と併せての開催を考えたところである。詳細については検討中である。

(事務局)

今年はチリ地震津波から 60 周年でもあることから、東日本大震災津波の 10 周年と関係づけて、これまでの資料も活用しながら特別展示を考えている。

(議長)

ほかに意見はないか。今年度事業に限らず、博物館の運営に関して委員の皆様の見解をいただきたい。

(委員)

隣の環境省自然保護官事務所と連携して実施できる事業があるのではないかと。あちらも色々と事業を実施しているので、ノウハウを自然観察会などに生かして充実させてほしい。

(委員)

震災前、陸前高田市の「海と貝のミュージアム」は国道沿いにあったことから、入館者数は他の施設よりもずっと多かった。ちょっと外れにあった市立博物館も全然及ばなかった。地理的な要件に対しては、地域で同種の館の連合体を作り、方策を練っていけば、それぞれの入館者数に良い影響があるのではないかと。昨年の「教員のための博物館の日」では、陸前高田市の博物館長も参加していて、協同での取組みを感じてよかった。

もう一点は、昨年の講演会でトンボの生態について話したような方を招いていただきたい。トンボに関して、色々な視点から捉え我々に教えていく一連の活動は、子どもたちにも通じることだし先生方にも参考になるので、これからもぜひ招いてほしい。

(委員)

学校統合が進むにつれて、学校と博物館の関わりも変わっていくのではないかと。思う。

また、委員になった当初は、自分が車を運転しないこともあって博物館は来

るのに不便な所だと感じていたが、ある日博物館の周囲を散策してみたところ、この土地に建っている意味や良さを感じ取った。博物館が（来館者にも）このようなことが伝わり、感じるができる場所になればいいと思う。

（委員）

追加だが、先ほどの博物館の連携のほかにも、地元の宿泊業者や菓子業者との連携も検討してみてはどうか。

（事務局）

博物館の連携に関してだが、昨年6～7月に開催した「気仙と津波～大船渡・陸前高田～」は、陸前高田市立博物館との共同開催である。今年度は、教員のための博物館の日で陸前高田市立博物館、住田町民俗資料館の協力を得ている。近隣の博物館との連携は大変重要なことと認識している。学芸員の専門分野や資料などの相互補完の面で必要であることから、今後も連携を図っていきたい。

「教員のための博物館の日」については、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、全国で中止した博物館が10館以上あったが、当館は参加者を少数に絞って実施することにした。延べ22名の申込みがあり、陸前高田市からも3名申込みがあったところである。

（議長）

昨年、博物館に震災関係の映像が見られるシアターがあるということで家族を誘って来た。1時間近く滞在したのだが、その間、来館者は我々家族3人だけだった。せっかく素晴らしいものを展示しているのだから、もっとたくさんの人に見に来てほしいと感じたところである。3月の津波関係特別展示を見たい人はたくさんいると思うので、実施に向け頑張っていただきたい。

（議長）

委員の皆様からいただいた意見を、今後の博物館事業に生かしていただくようお願いする。

5 その他

委員からは特に発言はなく、事務局から新任の学芸員を紹介した。

6 閉 会

平田館長が閉会を宣言。午前11時終了。